

なし「にっこり」への追肥による果肉障害軽減効果

要約

追肥を施した区は、果皮の汚れが少なくなり、果肉障害も少なかったことから、高温対策として追肥による施肥体系を見直すことが、対策になると思われる。

○ 展示のねらい

令和5年度に県南地方を中心になっこの高温による果肉障害が多発し、本管内も同様に果肉障害が発生した。有袋栽培は無袋に比べ果肉障害が少ないとされるが、令和5年産では果肉障害が見られた。今回は、有袋栽培における硫安追肥による果肉障害抑制の効果を確認する。

供試区：仕上げ摘果後（6月7日）に果実袋(赤袋)を掛け、9月7日に硫安をN成分2kg/10aを追肥した。

慣行区：仕上げ摘果後、果実袋(赤)を掛けた。

○ 主な成果



供試区の外観



慣行区の外観

第Ⅰ表 にっこの品質（10月3日収穫）

区分	重量 g	糖度	果色	地色	水浸状	褐変	硬度
供試区(赤袋+硫安)	615	11.7	4.6	4.8	0	0.2	1.58
慣行区(赤袋)	566	11.4	4.7	4.6	0.45	0	1.52

- ・果実外観は、追肥をした方が黒点はなくシミ状も少なかった。
- ・果実品質では、供試区の方は水浸状（皮下の果肉のうるみ）が見られず、軽い褐変（みつ症）が見られたのに対して、慣行区は軽い水浸状が数個見られたものの褐変はなかった。

○ 今後の方向性

今回は有袋での試験となったので、無袋での施肥の検証が必要と考える。

実施機関：芳賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：真岡市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315